

日本獣医生命科学大学 附属ワイルドライフ・ミュージアム 2018 年度自然系展示室企画展の記録

(1) 基本情報

【企画展名】

2018 年度自然系展示室企画展「野生鳥獣と農作物被害」

【会期】

2018(平成 30)年 8 月 18 日から 2019(平成 31)年 4 月 27 日

【会場】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム 自然系展示室

【主催】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム

【企画立案・展示制作】

石井奈穂美(学芸員)

(2) 趣旨

わが国の先人たちは、数千年にわたり野生鳥獣たちと向き合いながら耕作を続けてきた。明治の開国後に行われた乱獲や、戦後の国土開発による生息域の改変などを受け、身近な野生鳥獣の多くはその姿を消してしまっていたが、1980 年代以降徐々に野生鳥獣の数は回復を始め、地域によっては都市部にまで大型野生鳥獣が定着するようになった。これに伴い、野生鳥獣による農作物被害額は年間 200 億円に達し、日本全国で深刻な社会問題となっている。

本学では、1984(昭和 59)年に獣医学科としては日本で初めての「野生動物学教室[※]」を開設したことを皮切りに、関係する研究室にて被害の解決に必要な研究や人材育成に取り組んできた。その中で、野生鳥獣による農作物被害の解決のためには、対策に必要な制度や専門家が社会インフラとして整備されなければならないという結論に達した。

これを実現するためには、まずは野生鳥獣による農作物被害の周知が大きな課題となる。そこで、我々の身近な場所で起こっている野生鳥獣による農作物被害の現状を伝えることを目的とし、本企画展を開催した。

※ 現 野生動物学研究室(2018(平成 30)年に獣医学科は各教室の名称を研究室に改称した)

(3) 展示構成

【導入】

野生鳥獣による農作物被害が発生するようになった経緯をパネルにまとめた。

【〇〇と農作物被害】

農作物被害を出している野生鳥獣の剥製とともに、その動物の特徴や被害の様子をまとめたパネルを展示した。

【〇〇と野生鳥獣】

里山の風景を模したミニチュアジオラマとともに、農作物被害が起こる環境についてまとめたパネルを展示した。

【〇〇による農作物被害対策】

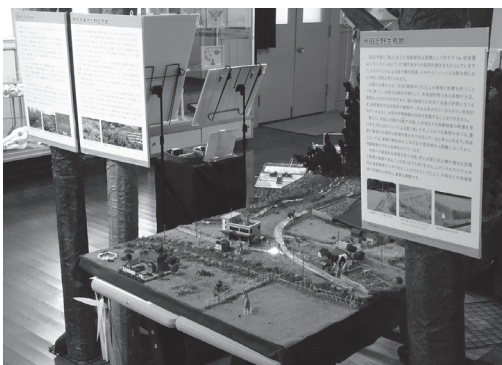
対策に関連する資料とともに、対策の概要をまとめたパネルを展示した。



「導入」ゾーンのパネル



「〇〇と農作物被害」ゾーンのニホンジカ剥製



「〇〇と野生鳥獣」ゾーンのミニチュアジオラマ



「〇〇による被害対策」ゾーンの様子

(4) 展示資料の概要

解説パネル：21点 剥製：35点 その他資料：9点

ニホンジカやニホンイノシシなど、農作物被害を起こす野生鳥獣の剥製を中心に展示した。また、農作物被害対策の解説用資料として、発信器付き首輪・中型獣捕獲用の箱わな・電気柵等、実際の対策で用いられる機器を展示した。

※会期中、必要に応じて展示資料の追加・変更を行った

(5) 関連イベント

【企画展関連ワークショップ：やってきたのはだれだ!? 畑に出てくる動物図鑑】

・主な実施日

2018(平成30)年10月14日(日)：特別開館(140名が参加)

2018(平成30)年11月2日(金)から4日(日)：大学祭に合わせた開館(265名が参加)

※その他個別対応あり

・会場

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム 自然系展示室

・主催

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム

・企画立案・資料制作

石井奈穂美(学芸員)

・趣旨

2015(平成 27)年の開館以降、大学で行われるイベント(大学祭・オープンキャンパス 等)に合わせた開館を中心に、展示室の公開を続けてきた。2015(平成 27)年度から 2017(平成 29)年度までの来館者の 8 割は、学内で行われるイベントに合わせた開館日に来館している。イベントに合わせた開館の場合、来館者の主要な目的が当館の見学ではない場合も多く、そのような来館者に対していかに展示の内容に興味を持ってもらうかは大きな課題であった。そこで、展示物を観察するきっかけ作りとして、企画展に関連したワークショップを開催した。

・内容

ワークショップの参加者の目標を、①動物を観察する②動物の特徴に気がつく③動物についての正しい知識を得る④農作物被害についての知識を持ち帰る、の 4 段階に設定した。

観察・解説の対象は、農作物被害額の多い 4 種の野生鳥獣(ニホンジカ・ニホンイノシシ・カラス・ニホンザル)とした。参加者には対象種のイラストが描かれているワークシートを配布した。イラストは対象種の特徴的な部位(足・角・嘴)が空欄になっており、空欄に押すためのスタンプを対象種の剥製(ニホンザルのみ等身大パネル)の横に設置した。スタンプは対象種ごとに3個ずつ(対象種の特徴が正しく描かれているもの 1 個と間違ったものが描かれているもの 2 個)用意した。

参加者には対象種の剥製とパネルを観察し(目標①に相当)、対象種のイラストが完成するようにスタンプを押してもらった(目標②に相当)。スタンプを押し終わった参加者に対しては、スタッフが答え合わせを行うとともに、対象種についての解説を行った(目標③に相当)。最後に、対象種の特徴と農作物被害についてまとめた冊子(図鑑用紙)にワークシートを挟み込み、「畑に出てくる動物図鑑」として製本したものを参加者に配布した(目標④に相当)。

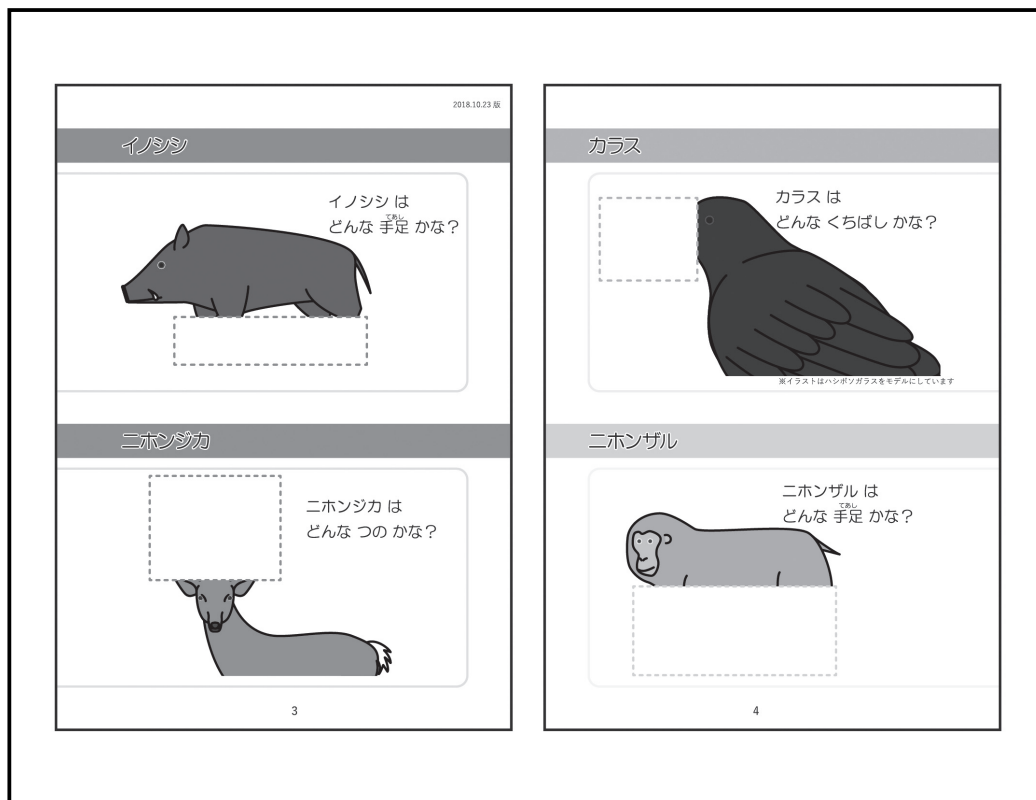
参加者全員が手にするワークシートの内容は、小学校 3 年生でも理解できるように設定した。これは、小学校 3 年生から理科の授業が始まり、身近な生物についての学習が行われることを考慮している。ただし、幅広い年齢層の参加者に対応するため、図鑑用紙には大人向けのより詳細な情報も記載した。



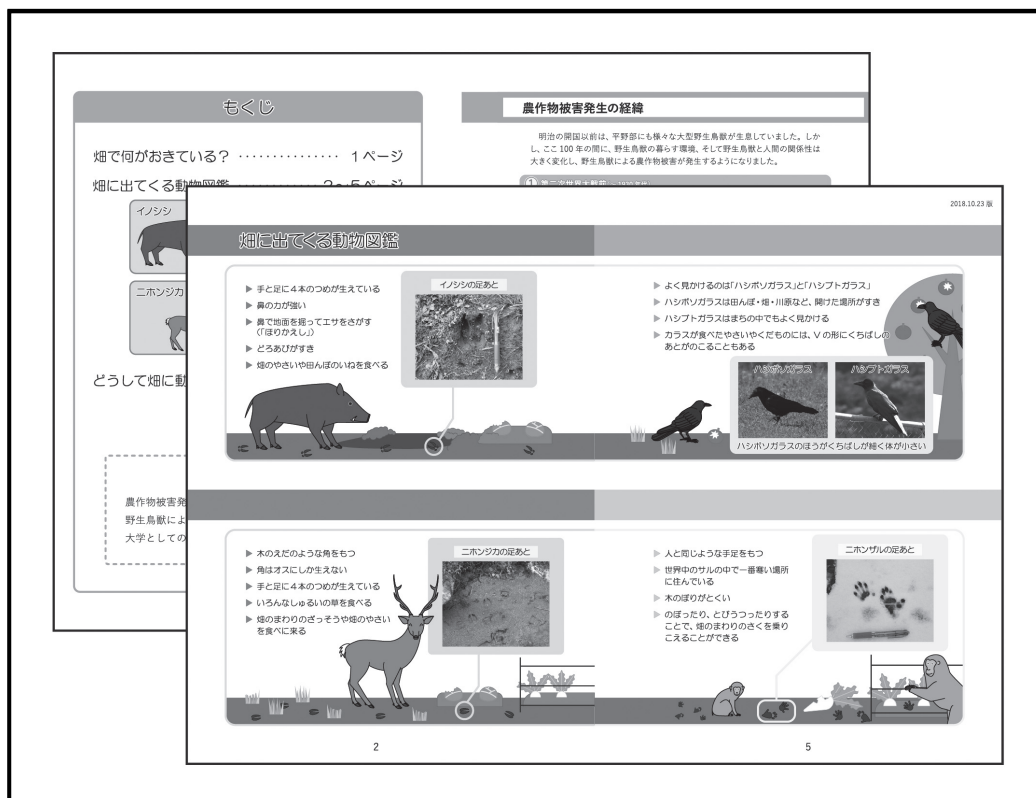
スタンプを押す参加者



学芸員課程受講生による解説



ワークシート



図鑑用紙